

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772301467		
法人名	桂ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム阿倍野(3F)		
所在地	大阪市阿倍野区播磨町1-20-3		
自己評価作成日	令和2年5月25日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JikvosoCd=2772301467-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・フロア内はバリアフリーとなっており、廊下も広く車椅子の方でも移動しやすくなっている、アイランドキッチンになっている為、入居者様から炊事の様子が見えやすく十分な広さがあり、調理やかたづけなどにも参加しやすい。・リビングを中心に居室が周りにあり、入居者様の見守りがしやすい。浴室には機械浴が設置している為ADLが低下している方でも安全に安心して入浴していただける。屋上にはミニキッチンとトイレが完備されている為様々な行事を行う事が出来る。季節を感じていただけるような催しや、入居者様の家族様と同じ時間を過ごしていただけるような企画を考え実施しています。個別ケアの実現を目指しスタッフ間で意見を出し合いサービスの向上に生かしています。身体拘束廃止について活発に話し合いを行い施設全体として取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家族との関わりを大切に敬老会や秋祭り、餅つき等家族と共に楽しむ行事も多く、面会など家族の来訪時には利用者の様子を伝える中で意見や要望を聞きインターネットを利用して面会を実現する等意見を反映しサービスの向上に繋げています。また利用者が自己決定できるよう関わり、調理や洗濯物たたみ、季節の作品作り等、やりたい事を支えながら個々に合った環境を整えその人らしく暮らせるよう支援しています。また朝食はご飯やパン、麺類から好みで選び、昼食は職員も共に食卓を囲み家庭的な団欒の中で食事を摂ったり、寿司やお好み焼き、餅つきやスイーツバイキング等の他、屋上で行う夕涼み会ではビールの提供もあり、食を楽しめるよう支援しています。また本人や家族の意向に添って住み慣れたホームで最期まで過ごせるよう終末期の支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアの玄関に理念を掲げている。それをモットーに日々入居者様に接している。	法人の基本理念を基に独自の基本方針を分かりやすく見直し、玄関に掲示しています。明るく家庭的な雰囲気の中で利用者の声を聴き、自己決定できる事を大切に支援を心掛けています。年度末には法人全体として法人理念やホームの基本方針を振り返り確認する機会があり、方針に沿った次年度の活動に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はなく、挨拶を交わす程度である。園児の訪問があったり、夏祭りなどの地域の行事にはできるだけ参加するようにしている。	コロナ禍で傾聴や将棋等のボランティア来訪や阪南祭りなどが中止となりましたが、自治会に加入し散歩や買い物時に会った方と挨拶を交わしたり、地域の夏祭りへの参加や楽器演奏などのボランティアが来訪し交流を楽しんでいます。管理者は小中学校の福祉教育や地域の防災訓練や祭りなどの行事の際に協力し、またホームとして自治会とは防災協定を結んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や防災訓練の参加、福祉教育のお手伝いをする事によって、少しずつ活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第4曜日に運営推進会議を開催し、行事の報告や事例・取り組み等を報告している。また、地域の行事の日時等を教えていただき、外出の機会につなげている。	会議は2ヶ月に1度、地域関係者や地域包括支援センター職員等の参加を得て行い、現在は書面開催となっています。通常では利用者の状況や活動の報告と予定、事故については対応策を含めて報告を行い意見交換しています。地域の祭りや訓練等の情報をもらい利用者や参加したり、管理者が準備等の協力を行っており、ホームへの理解や地域との協力関係作りを活かしています。	家族の参加が難しい状況となっています。会議の開催案内を行ったり、家族の興味があるテーマの工夫など、家族の参加が得られるよう取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡や相談を行い、関係作りに努めている。	事故報告などで役所の窓口を訪問した際は提出書類について担当者に確認したり、コロナ禍での運営推進会議のあり方などの相談を行いアドバイスを得ています。また感染症への注意喚起や研修案内などが届いた際は職員に声をかけ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為に関しては資料があり、常時見る事ができるようになっている。また、最低年1回勉強会を実施している。身体拘束にあたる介護はおこなっていない。	身体拘束委員会を中心に職員は毎月のフロア会議の中で身体拘束について学ぶ機会を持っています。家族から身体拘束に関する希望が出されることもあります。拘束を行うことでの弊害について説明し理解を得るようにしています。物の落下防止のための窓の施錠や安全な付き添いの為、鈴を使用している方がおり、毎月の会議で必要性を検討しています。	

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても最低年1回勉強会をおこなっており、資料はいつでも閲覧できるようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護(身体拘束・虐待を含む)について、最低年1回勉強会をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアの玄関に意見箱を設置している。また、面会時や行事後の家族会にて意見の交換を行ったり、アンケートを実施して意見をくみとっている。	家族へは毎月利用者の様子を伝える便りを送付し、来訪時にも様子を伝え意見や要望を聞いています。年に2回行う家族会や家族を招き一緒に楽しむ行事も多く意見を言いやすい関係作りに努めています。意見や要望は内容により法人にも相談しインターネットを利用した面会を実現したり、些細な内容でも速やかな対応を心掛けています。年に1度のアンケートでは感謝の声が多く届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議をおこなっている。また、年2回と適宜、面談の機会を設けている。	月に1度のフロア会議では全職員に意見を募り検討したり、日々の業務中で意見が出された場合はその都度話し合っています。職員は個別ケアや日々の細やかな業務内容など積極的に意見や提案を出しており、職員間で話し合い決めています。また年に2回定期面談を実施しており、意見や希望を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課があり、各自目標をもって働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内勉強会と、法人全体での勉強会も月1回実施している。外部研修にはなかなか参加できない。		

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿倍野区内の施設連絡会や大阪市グループホームネットワークに定期的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるような声かけを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に聞き出したり、入居までも、できるだけ話をする機会を設け、何でも話せるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様とよく話し合い、必要なサービスを見極め、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、暮らしを共にする者として、できる事はできるだけしていただき、一緒に楽しんで生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に近況報告をしたり、本人様を交えて一緒に話をしたりして、なんでも話し合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人・知人との交流は、電話や面会などにより、続けていけるよう支援している。	友人や知人、親戚等の来訪時は居室でゆっくり過ごせるよう配慮をしています。散歩や買い物、祭り等の地域行事に出かけた際は知人に出会う事もあり会話や挨拶を交わしています。また家族やお世話になった方に職員がサポートしながら年賀状を出したり、家族に利用者の思いを伝え家族と共に働いていた会社を訪ねたり、故郷へ帰省する方もおり、家族の協力も得ながら支援をしています。	

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが困難な場合は、職員が間に入る様にして支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は連絡が途絶える事がほとんどだが、気軽にきていただけるような声かけはしている。不定期で1名、家族様が傾聴ボランティアとしての訪問がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、希望・意見等を聞き出せるように努めている。困難な場合は、本人の立場になって考える様にしている。	入居に向けて本人や家族と面談し、ホームに望むことや生活歴、趣味や楽しみごとなどを聞き、関わりのあった事業所からも情報をもらい意向の把握に繋げています。入居後に関わりの中で知った思いを個別記録に残し共有したり、把握が困難な場合は表情や様子、利用者が不穏な時には原因を探りながらフロア会議で話し合い意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の聞き取りや資料・日々の会話や家族様とのやりとりから把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況・精神状況を常に観察し、様々な状況を把握するようにしている。また、それをケース記録に記入し、職員同士で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態の観察や、本人様の言動・家族様の意見や意向をもとにケアカンファレンスをおこない、介護計画を作成している。	本人や事前に確認した家族の意向を基に介護計画を作成しています。毎日計画の実施状況を確認し、毎月評価を行い、変化のない場合は3ヶ月毎に介護計画を見直しています。見直しに向けては再アセスメントの基、担当者会議を開き、フロア会議での職員の意見や往診時に確認した医師の意見を反映し、状況により理学療法士などの会議への参加を得ることもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録(ケース記録)や申し送りノート等で情報の共有に努めている。個人記録は本人様の言動をできるだけ日々記入するようにしている。		

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、地域の行事にはできるだけ参加していただくようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員訪問診療を受けておられる。その時の状態や、必要に応じて、家族様に往診に立ち会っていただく事もある。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、これまでの医師を継続し家族と共に受診している方もいます。協力医は月2回往診があり、体調不良時は24時間連絡を取る事ができ指示をもらい対応しています。また専門医への受診は近隣であれば職員が対応し、遠方の場合は家族が付き添い、その都度情報交換しています。また必要に応じて訪問歯科を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康管理をおこなっている。日常の相談は気軽にできるようになっており、必要に応じて看護師から医師に連絡するようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の担当者と密に連絡をとるようにしている。また、入院中に訪問することにより、情報の収集・交換をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り対応できる旨を説明している。ターミナルの状態になった時には、終末期の対応について、医療・家族様・事業所で十分に話し合いをおこない、ケアプランを作成し対応している。	入居時に看取りに関する指針に沿って説明し、入居後も状況に応じて意向を再確認する事を伝えています。重度化した場合は医師から家族に説明が行われ、本人や家族の意向を大切に今後について話し合っています。職員は医師や訪問看護師にアドバイスをもらい、家族には泊まりや付き添い等の協力を得ながら看取り支援に取り組んでいます。管理者は職員の相談に乗り不安の解消に努め、看取りに関する勉強会も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については勉強会でもとりあげており、マニュアル化している。定期的な訓練はおこなっていない。		

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。内1回は夜間想定、1回は日中で、消防署立ち会いにておこなっている。昨年は1回地域の方にも参加していただいた。	年に2回昼夜を想定した避難訓練の内、1度は消防署の立ち合いを得て行い、消防団員の参加を得る事もあり、通報や初期消火、車椅子の方も一緒に避難誘導等を行っています。ビル内の他法人の防火管理者同士で連携を図り、互いの訓練時は案内をしています。また地域の訓練には職員が参加し、地域とは防災協定を結び、地域の方の備蓄、備品も含めて準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本としているが、状況に応じた対応をしている。言葉遣いが乱れていたら、都度指摘している。また、プライバシーを損ねないような声かけ・対応を心がけている。	接遇やマナーに関する研修の実施や年に数回、虐待の芽チェックリストを用いて言葉遣いや利用者への呼称などについて振り返っています。人権の尊重は基本方針にも謳っており、利用者は目上の人として尊重し、呼称については苗字を基本とし、不適切な対応は職員が自ら気付くよう注意を促しています。希望や意思表示がある場合は同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方については、聞き出せるよう心がけている。困難な方については、できるだけ本人様の思いをくみとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まってはいるが、臨機応変に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理美容にてカットしていただいている。希望があればパーマやカラーも可能である。衣類については、職員で用意して確認していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には盛り付け・配膳や片付け等も手伝っていただいている。職員も一緒に、楽しく食事ができるような環境作りに努めている。	朝食はご飯やパン、麺類から選んでもらい、昼と夕食は献立に沿って食材が届き、関われる利用者や調理し職員も食卓に着き談笑しながら同じ食事を摂っています。イベント食も多くピザやお好み焼き、手作り弁当などをしたり、時には家族と共に食事する機会も作っています。また餅つきを行い善哉を作ったり、たこ焼きやホットケーキなどのおやつ作りも行い食べる事を楽しめるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食・ソフト食など、個人に合わせた形態や量で提供している。水分もできるだけ摂っていただくよう声かけしている。		

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアしていただいている。本人様の状態や能力に合わせて、声かけ・見守り・一部介助・全介助にておこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄していただけるよう、一人ひとりの排泄パターンや訴えに応じてトイレ誘導・パット交換をしている。	排泄チェック表や排泄のサインなどを見ながらトイレで排泄ができるよう声掛けや誘導をしています。重度の方も本人の意思表示がある場合は尊重し、家族とも相談しながらできる限りトイレで排泄ができるよう支援をしています。本人に合った排泄支援や用品の選択などは日々の中で随時話し合い、費用の負担も考慮しながら検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、主治医指導のもと下剤の調整をおこなっている。日頃から水分を十分に摂っていただいたり、トイレに行かれた際に腹部マッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月・水・金と火・木・土に分けて週3回入浴していただいている。平日(月～土)の午前中は毎日入浴できる。	入浴は週に3回は入れるよう主に午前中に支援し、入浴を好まない方でも週に2回は入れるよう支援しています。一人ずつ湯を入れ替え好みの湯温や使い慣れた石鹸やシャンプーを使用する方もおり、個々のペースでの入浴を支援しています。強い入浴拒否の方は断られた場合は理由を探り、意向に添うよう柔軟に対応しています。また重度となっても車椅子のまま入れる機械浴を完備しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、その時の状態・状況に応じて、ソファや居室で休んでいただいている。夜間については明るさや室温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握しているとは言えないが、薬情を確認して理解するよう努めており、また、都度説明したりしている。服薬に関しては、飲み込むまでを職員が必ず確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやレクリエーションの参加・外出などで気分転換が図れるようにしている。嗜好品についても個人で購入している。		

グループホーム阿倍野(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望ですぐに外出することは困難だが、近隣のスーパー等への買物や散歩にはできるだけ一緒に行っていただくよう支援している。家族様の協力により外出される方もいる。	通常であれば散歩や買い物、近所のポストなど、毎日利用者と一緒に出掛けたり、祭りなどの地域行事やカステラ工場の見学など、家族にも声をかけ外出行事を行っていましたが現在はコロナ禍で外出が困難となっています。フロアの壁面に大きな桜花を作り花見気分を味わったり、広い屋上に出て外気浴や花火、景色を眺めるなど工夫しながら気分転換を図れるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金庫にておこづかいを預かっている。希望される方については少額所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙については制限していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などに季節に合わせた飾りつけをしている。空調による温度調節をしたり、心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	共用空間は行事の写真や毎月季節に合わせて七夕飾りなどを利用者と一緒につけて飾り、季節を意識した空間作りをしています。各居室の前や廊下など多くの作り付けベンチがあり、広いリビングにはソファを数カ所置いたり、テーブルは利用者同士の関係を見ながら随時座る場所を変更し、居心地よく過ごせるよう配慮をしています。また温湿度の管理と共に日々関われる方と一緒に掃除を行い清潔な空間を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室前にはベンチがあり、リビングにはテーブル席の他にソファもある。テレビを観たり、入居者様同士や職員も交えてお話ししたり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ以前しようしていた家具や、使い慣れた物を持って来ていただき、本人様が居心地良く過ごせるようにしている。	和室と洋室が用意されている居室には其々トイレと洗面台が設置してあり、利用者は筆筒やテレビなどの他、ゴミ箱など自宅で使用していた物を持参してもらっています。また大切な遺影や家族の写真や飾り、趣味の将棋セットやキーボード、持参した裁縫道具で刺繍をして過ごす方もおり、自宅のように過ごせる居室となるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体がバリアフリーになっている。リビング・廊下などの共用部分や居室のトイレなど、必要な場所には手すりがついている。床はクッションフロアになっている。		